

# 避難路照らす蓄光材

吉田の  
小学校 深夜の津波想定し実験

光を蓄えて発光する「蓄光材」の有効性を確かめる公開実験が八日夜、吉田町住吉小学校であり、町民ら約五十人が参加した。

町と土木学会地震工学委員会の主催で、深夜の地震で停電し、津波も予想される―と想定。同校の四階から屋上に通じる津波避難階段の手すりや滑り止めの部分などに、テープ状の蓄光材を貼って明るさを確認した。



蓄光材の明るさを確認する参加者＝吉田町住吉小学校で

蓄光材が全く無い場合、階段の滑り止めにだけ貼り付けた場合、手すりや滑り止めに貼り付けた場合の三パターンで実験。参加者の先頭から最後尾が階段を上るまでの時間を計測し、一人一人にアンケートを実施した。

蓄光材が無い場合、参加者は足元を確かめながら上ったが、すべ

て光っている時は、駆いた。「ここだけ蓄光け足の人も。「思った材があっても、家からより明るい」「子どもや高齢者でも安全に上る道中が明るくなければ仕方ない」との声もあつた。(伊藤一樹)